

24 明治5年10月18日 菊池長閑宛

(長閑注記)

今日呼び出しにて給貸願不叶旨達ニ相成候御仰越之通県々富有
之者にて私無論ハ学費自弁出来候と申立候趣甚タ以参事始メ鹿
忽且失敬之至リニ候諸県共一旦其家元へ問合セ其返答ニ依テ県
々申立候由然ルヲ我県而已徒ニ人之評判位にて宿元へ尋問も無
之文部省届候段第一県之越度にて其か為メ給貸願候私共ハ文部
省を欺候事ニ相成一日も学校ニ居候事出来不申場合ニ至候右之
段一旦其筋へも談候処私共も県ニ懸合可申且学校も談吳候様
相談可致と申居候実ハ当地出張所ニハ一人も事之分り候者無之
候得ハ兎角尊前々参事なりへ此段御含にて一昨年以來自費を以
遊学為致此迄取続兼殊ニ御取合も無之御届ニ成候てハ甚迷惑之

趣御願被下候ハ、宜か、考居候此儀ハ飽迄不願候てハ私詐者

御座下
第十三号か

(長閑注記2)

ニ相成候間能々此段御舎被下度候此度文部省之返答ハ全ク宮部

之口ヨリ出候と私限決定致候故別紙宮部へ之一通認候其趣意ハ

諸県之例ヲ引岩手県ノミ異候ハ如何之者ニ候や如此にてハ私当

校を詐候者ニテ一日モ難留加之御県之越度之様ニも相成兼不申

参事始メ貴兄ニハ私之宿元之都合を委細御承知とも被申間敷評

判にて内情如何を不問御極被下候てハ私甚迷惑ニ御座候只今ニ

てハ漸く所を定め折角勉強致居候所右一件にて所を失ヒ学問も

怠様相成候御存知之通一昨年以來自費にて在京罷在候得ハ此上

届兼と愚父ハ申参候実ニ私進退此ニ極候間何卒諸県之如ク宿元

へ御問合之上其返答を以文部省御届被下度候云々書記候何れ尊

前之御高慮にて右書状御届被下候なり御止被下候共宜敷御願申

上候私考えニハ右書状宮部ニ遣候方却て宜かと存候○先弁監事

生徒ノ申候ニハ一旦ハ願書御返申候然し只今ハ学校御退にてハ

監察役申候ニハ一旦ハ願書御返申候然し只今ハ学校御退にてハ

貴兄ハ勿論当校にても不本意ニ候間何れ私共相談仕御留之様取

尽候と申居候猶今晚監事へ参委細談可申且後日ハ兎も有れ只今

之所てハ当校を欺候簾ニ当り候得ハ一日モ止り候道理無之と申

存入ニ候何れ監事之方にてハ何ヨリ止れト申ハ必定ニ候得共一

先私ハ右之通可談候併乍憚り御心配被下間敷素ハ県之越度にて

私方ニ道理有之候得ハあな^{かぢ}込候事ニ無之只々当分之内大ニ

勉強之妨ニ御座候実ニ県之愚物共ニハ不平ニ不堪候猶後便ニ可

(長閑注記1)
(朱書)
〔第十三号十月十八日附〕
(長閑注記2)
(朱書)
〔十月廿六日達同晦日此方第十五号ヲ以郵便へ差出し〕

申上候頓首

十月十^(抹消)
(七) 八日

御尊父様

武夫拜